

教育・啓発



新入社員教育

目標

従業員の環境保全活動への理解を深め、環境意識の向上を図ります。また製品や生産に配慮するための専門知識や資格の取得もめざしています。

施策

新入社員から管理職まで、全社員が参加できる環境教育を実施し、環境意識を高めます。

実績

従業員への環境教育

いすゞでは一人ひとりが環境保全意識を高め、積極的に取り組むよう入社時の新入社員教育をはじめ、生産部門では環境マネジメントシステムに関する教育などを実施しています。また、6月と12月には協力企業31社の代表従業員の人たちにもISO内部研修を実施しました。

教育区分	対象	主な内容	開催頻度
基礎教育	新入社員	いすゞの環境保全への考え方と対応	年1回
	一般社員、管理職	外部講師を招いて、環境問題の概要および対応の必要性を教育	
専門教育 (ISO14001)	一般社員、管理職	環境マネジメントシステムの一般教育	随時
	監査人	環境マネジメントシステムの詳細 内部監査の仕組みと手順	
	重要設備従業者	設備概要、運転と点検 保全、異常/緊急時の処置	年1回

社内報による啓蒙

環境月間(6月)には社内報で環境特集を組み、いすゞの環境保全への取り組みや身近にできる省エネ運動などを掲載し、従業員への啓蒙活動を行いました。また、いすゞの主力製品であるディーゼルエンジンを正しく理解するために1999年8月(1023号)から「ベルちゃんのディーゼルゼミナール」を連載しています。また2000年5月には10回までを小冊子に集約してわかりやすい教材として活用しています。この小冊子は、整備業界の方々からも高く評価され、提供に関する問い合わせを数多くいただいています。



社内報
(1999年6月号)



(2000年6月号)



ベルちゃんのディーゼル
ゼミナール小冊子

各工場ごとの活動

北海道工場では「環境貢献特別賞」を設定し、環境改善活動を推進しています。栃木工場ではライン長研究会のなかで全員参加のリサイクル活動やモラルアップ活動を実施、川崎工場では環境提案キャンペーンを行い、多くの応募がありました。藤沢工場では1999年11月から環境提案活動を始めました。また各工場ごとで「環境ニュース」を発行するなど、各職場ごとに知恵を出し合い、環境意識を高める活動を行っています。

1999年度環境目標と実績

いすゞは1993年に、「いすゞ地球環境憲章」を企業活動として推進していくために、具体的な取り組み内容を盛り込んだ「いすゞの地球環境取組計画」をまとめ、公表しました。3年後の1996年4月には、その間の実績を踏まえて見直しを行い、ISO14001環境マネジメントシステムの導入など新たな項目を追加して推進してきました。さらに1998年2月には「使用済み自動車リサイクルに関する自主行動計画」を策定し、目標の達成に努めています。

今回、「いすゞ環境報告書2000」を作成するにあたり、環境目標と1999年度実績をまとめました。

環境目標	1999年度実績
ISO14001環境マネジメントシステムの導入 ・国内全4工場認証取得 / 1999年度	・3工場認証取得(国内全工場の取得完了)
燃費の向上 ・使用段階の車両燃費を改善し、CO ₂ * 排出量の削減に寄与する	・大型トラック「ギガ」6WF1-TCで11%向上 ・ユーザーの燃費向上に寄与するため毎年「省燃費・安全運転講習会」を実施
排出ガスのクリーン化 ・ディーゼルエンジンの長期排出ガス規制、次期新短期排出ガス規制に対応し、クリーン化に努める	・高圧燃料噴射、ワンウェイ・クールド EGRなど新技術を採用、長期規制へ対応 ・低公害車指定制度に積極的に対応 ・アイドリング・ストップ&スタートシステム車の展開をトラックへ拡大 ・DPF*を開発し、小型トラック「エルフ」、中型トラック「フォワード」にも展開を拡大し、大都市を中心にモニターテスト中
クリーンエネルギー車の開発 ・クリーンエネルギー車の開発を積極的に推進	・中型路線バス「エルガ ミオ」でCNG* ³ 車の新型モデルを販売(1999年9月)
リサイクル性の向上 ・新車リサイクル可能性を90%以上 / 2002年(自主目標)	・小型トラック「エルフ」、SUV「ビッグホーン」、1トンピックアップトラックでリサイクル可能率向上のため、解体性評価・研究 ・大型トラックと小型トラックでリサイクル実効率把握の実証研究
鉛の使用量削減 ・1996年度の1/2以下 / 2000年 ・1996年度の1/3以下 / 2005年	・1999/2000年モデル新車型より半減 ・一部車型で1999年モデルより1/3以下を達成
カーエアコン冷媒使用量の削減 ・省冷媒型エアコンの採用拡大	・大型トラック「ギガ」で前モデル比23%削減、 ・中型路線バス「エルガ ミオ」で前モデル比29%削減
工場の省エネルギー ・エネルギー使用効率向上 原単位平均1% / 年 ・CO ₂ 排出量の安定化 1990年レベルで安定 / 2000年	・1990年比17%向上 ・1990年比46%削減
工場の廃棄物の削減 ・最終処分量の削減 1990年比70%削減 / 2000年	・1990年比85%削減
物流の合理化 ・梱包材等の木材使用削減 リターナブル化およびスチール化 65% / 2002年	・リターナブル化およびスチール化56%達成

*1: 二酸化炭素

*2: Diesel Particulate Filter = ディーゼル パティキュレート フィルター
PM・黒煙を除去する装置(DPFに関する説明は12ページに載せています)

*3: Compressed Natural Gas = 圧縮天然ガス